

第2回 福岡市立ひとり親家庭支援センター指定管理者選定委員会 議事録

●日時

令和7年9月5日（金曜日）14時00分から15時40分まで

●場所

福岡市役所 行政棟9階 顧問室

●参加者

委員：満生委員長、池田委員、藤田委員、正岡委員、松尾委員

事務局：こども未来局こども健やか部こども見守り支援課長 他2名

1 開会

2 指定管理者の候補者の選定

(1) 応募団体の財務状況

委員：直近の令和6年度のみではあるが、支出が収入を上回っている。保有資産の状況から判断すると、すぐに法人の運営が危ぶまれるものではないが、ヒアリングで今後の見通しなどを確認する必要がある。

(2) 応募団体へのヒアリング

① 応募団体からの説明

② 質疑応答

委員：令和6年度のみ支出が収入を上回っている、要因は何か。また、今後の見通しはどうか。

応募団体：要因分析や対応策の検討を今後行っていく。

委員：経費配分の見直しなどにより、安定的、継続的に事業が行えるように努められたい。

委員：令和7年度事業計画における入学お祝い金事業の予算約500万円は、収支見合って計上したものか、この予算で希望者全てに交付できるか。

応募団体：希望者が想定を上回った場合でも、できる限り対応していきたいと考えている。

委員：お祝い金を渡したい気持ちは理解できるが、このような金額が大きい事業費を切り詰めるなどしていかないといけないのではないか。会員が少ない状況であれば、お祝い金交付を会員特権とすることで、会員増加にも資するのではないか。

委員：経理に詳しい方などに相談しながら、安定した運営に努められたい。

委員：ひとり親家庭等日常生活支援事業について、利用開始前に、利用者と支援員との事前面談を行っているか。

応募団体：事前面談までは行っていない。

委員：相性の問題があるので、事前面談を行ってはどうか。

応募団体：事前面談に関する支援員への手当の支給や支援員の拘束時間が増えるなどの問題がある。相性等にも考慮し、利用者へのヒアリングをしっかりと行った上で支援員を選定している。事前面談については、所管課と協議しながら検討していく。

委員：良い制度なので、広報や事前面談など、もっと力を入れて取り組んでほしい。

委員：昨今の求職活動は、インターネットを活用して必要な情報をピックアップしていくのがスタンダードになってきている。自立の第一歩が就業になるため、スピード感を持って、しっかりと専門機関であるハローワークに繋いでいただきたい。

委員：食料支援に力を入れているとのことだが、財源は何か。

応募団体：こども家庭庁が実施する「ひとり親家庭等のこどもの食事等支援事業」や市補助金などを活用しつつ、不足分は自主財源で行っている。

委員：夏休み期間中のひとり親家庭のこどもの食事回数が少ないといった報道があり、しっかり取り組んでいただきたい。

委員：業務改善はどのようなものか。

応募団体：これまで紙媒体で相談履歴を管理していたところ、電子データで管理するようになった。

委員：母子世帯中心の施策が多い。ひとり親支援としては父子世帯もきちんと支援していくべきだが、どう考えているか。

応募団体：父子世帯向けにセミナーなどの機会を設けても、応募がない状況である。

委員：現状、センターには男性職員がいないので、例えば、企画・広報面に詳しい男性を事務職で雇用してもいいと思われる。父子家庭の支援にもなる。

応募団体：利用者にはDV経験などから男性への拒否感が強い方もいるため、配慮が必要である。

委員：寡婦だけでなく、ひとり親家庭の方の雇用にも努められたい。

委員：施設の管理は外部委託か。常駐しているのか。

応募団体：外部委託しており、常駐ではない。

委員：建物も老朽化していると思われるので、事業と施設管理を一緒に行うのは大変だと思う。AEDの点検は実施しているか。

応募団体：きちんと点検し、市へ報告している。

(3) 審査・講評

(審査結果)

応募団体は、ひとり親家庭支援センターの指定管理者に求める水準に達している。

(講評)

委員：役員の年齢も上がってきている。安定性・継続性のある経営ができているのか、市でもしっかりと把握していただき、市民の役に立つ施設であり続けていただきたい。

委員：予算・決算など、事務の専任を配置して対応させるなど、組織的な対応をしていくべき。また、母子家庭だけでなく、父子家庭にも目を向けて欲しい。セミナーなど、父子家庭からの応募がなくとも募集を続けてほしい。声掛けをするのが大事。

委員：新たな取組みを行っているとのことであったが、前例踏襲とならないよう、不断の見直しをお願いしたい。就労支援については、ハローワークに繋いでもらうことで効果が上がる部分が非常にあるため、実のある連携を取っていただきたい。

委員：政策提言も行うような全国的な団体の一員として、他都市の団体と情報交換できることが応募団体の強みと言える。そういった強みを活かしながら、頑張ってもらいたい。

委員：アナログからデジタルへなど、時代に合わせた取組みを進めるような努力が感じられた一方で、安全安心対策が気になった。建物だけでなく、従業員を守るカスタマーハラスメント対策の観点から、プライバシーに配慮しながら、相談窓口へのカメラ設置などの対策も検討されたい。
また、個人情報保護の規約なども、法改正に合わせ、内容の確認、見直しに努められたい。

3 閉会
